



ほほえみ



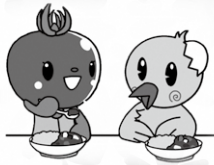
ひなとま食堂

もくじ

● こどもと親の居場所 ひなとま食堂	2
● 男女共同参画社会 みんなで考えよう!	3
● はつらつきいきサポーター養成研修	3
● アイスランドは、“世界一、ジェンダー平等の国!!”	4
● 鴻巣市人権・男女共同のつどい	4
● 『小さな人形げき ふうるら』を観に行きました	5
● パープルリボンキャンペーンを開催しました	6



SDGs 未来都市
KONOSU



こどもと親の居場所

ひなとま食堂



ホームページは
こちら

毎週金曜日、美味しいご飯で笑顔を広げる「ひなとま食堂」が鴻巣市内で活動しています。こどもたちの明るい笑顔とにぎやかな声に誘われて、代表の田中さんにお話を伺いました。

こども食堂を始めた理由は「地域のこどもたちのために何かしたい」「子育て世帯の現状を知り、親子に寄り添う力を付けたい」と思い2024年4月からスタートしました。



こどもたちが安心して過ごせる居場所として、温かい食事の提供だけでなく、学習支援や相談場所としても利用されています。また、人形劇や手話体験、ニュースポーツなどの楽しいレクリエーションも行っています。

長期休暇中（夏休みなど）は1軒1軒回る宅食や、企業とコラボして出張こども食堂なども開催しています。

★こどもたちの「自ら考える力」を大切に

こどもたちが大人から与えられて、指示されて動くのではなく、自ら考えて行動する力を身に付けてほしいと考えています。そのため、自己肯定感を重視し、こどもを褒めることを大切にしています。

★食事作りでは、「こどもたちが完食すること」を目標に、カレーや揚げ物など、みんなが「おいしい!」と喜んでくれるメニューを工夫して提供しています。

★地域のつながりを大切に、活動の幅を広げる

生まれも育ちも鴻巣の田中さんは、実家の畑で農業も営んでいます。「地域の方に温かくしていただいているので、これからも地域とのつながりを大切にしたい」と語ります。

★直近の目標は、移動式こども食堂です。

キッチンカーでの朝食提供とこども食堂のない地域での夜間開催。朝食の取れていない子や不登校の子が友達



と再度つながるきっかけづくり、ヤングケアラーの子の負担を少しでも減らすお手伝いができたらと思います。

クラウドファンディングに挑戦し、鴻巣市内からも多くの方に支援をいただきました。皆さんの想いと一緒に温かい食事と居場所を提供させていただくため準備中です。

★活動の充実に向け、「人脈、人とのつながり」を求めています。調理やこどもに接するボランティアさんを募集しています。

★自営業とひなとま食堂のボランティア活動と家庭で忙しい毎日ですが、「どれも楽しく充実している」と笑顔で話してくれました。



■田中さんからのメッセージ

地域の皆様の温かいご支援のおかげで、「ひなとま食堂」は活動を続けることができています。心より感謝申し上げます。

鴻巣市内にも苦しい思いをして頑張っているご家庭があります。

こどもたちの笑顔と成長を支えるこの活動を維持していくのに、私1人では限界があります。食材のご寄附や活動資金のご寄附、貸倉庫など、皆様の温かいお気持ちが、こどもたちにとって安心できる居場所を守る力となります。

こどもたちの未来を共に育むため、ご支援・ご協力をお願いいたします。

随時見学も受け付けております。



第1～3金曜日 ハイワールド

第4、5金曜日 鴻巣人形町内会自治会館

ともに15:00～19:00開催

寄附は現地で受付のほか、連絡をくだされば受け取りに伺います。

電話 048-514-0935

メール hinatoma2024@gmail.com

男女共同参画社会 みんなで考えよう!

令和7年7月18日(金)クレアこうのす大会議室にて、鴻巣市民生委員・児童委員協議会連合会 男女共同参画推進部会の座学講座がありました。

講演テーマ「もっと自分を愛していい」

自立した女性の生き方から学ぶ、自分を愛するために出来ること

講演者 高野てるみ氏 映画プロデューサー・シネマエッセイスト

講演内容 自身の著書でココ・シャネルを題材とした内容で講演。ココはあだ名で本名はガブリエル・シャネル。12歳の時に母が亡くなり、父に孤児院に預けられた。そこで裁縫を学び、のちの仕事につながる経験をした。18歳になると孤児院を出て、富裕層の社会に身を置くも、そこで知った男性のための女性の装いに疑問を感じ、女性のためのそれまでにない装いを発表。多くの困難をチャンスと捉え、20世紀初頭からファッションデザイナーとして活躍。今なお世界的なファッションデザイナーであり、女性の自立を牽引した女性として知られている。1883年8月19日～1971年1月10日(87歳没)

自立した女性 自己肯定→自愛→自分を愛する→人を愛する事が出来る

ココ・シャネルの名言

- ◇ 装うことは素敵。けれど、装わされることは哀しい。
- ◇ 人生がわかるのは、逆境の時よ。
- ◇ 失敗しなくちゃ、成功はしないわよ。
- ◇ 翼を持たずに生まれてきたのなら、生やすためにどんなことでもしなさい。

結びに 女性の生き方、働き方の幅が広がり選択の自由があるからこそ、より自分らしい生き方を模索できる時代。生きがいやこだわりを求めるとき、女性らしさとは何か、自立することとは何か、自分を愛することを大切にすることなどを改めて考えさせられました。



高野てるみ氏

参加者の声

- ◆ 自分を愛し大切にすることで人に優しく接する事が出来ると思う。
- ◆ 「自分を愛して人を愛する事が出来る」言葉は民生・児童委員にも役立つと思う。
- ◆ 「失敗しなくちゃ、成功しない」は生きざまから出た言葉なんだと実感しました。
- ◆ 人生経験・社会的貢献の豊かな方の講演は、無理なくあるがままにお話を聞けました。

はつらついきいきサポーター養成研修 ～いつまでも 自分らしく 健康で輝くために☆～

1 新しい高齢者支援メニューがスタート

みなさんは、「はつらついきいきサポーター」をご存じですか。

私は、手術後の療養中、これからの健康や生活が不安になりました。年々頭脳も身体も低下気味な上に病気も加わって、気分が落ち込んだままでした。このままじゃいけない。何か打開策はないかと

鴻巣市のホームページを検索していたところ、「はつらついきいきサポーター養成研修」の記事を発見。サポーターが不安を抱えた高齢者をサポートしてくれる。これだと思い、さっそく担当されている社会福祉協議会を訪問してお話を伺いました。



2 どんなことをやるのですか

「はつらついきいきサポーター養成研修」は、地域の支え合いを目的に、担い手(ボランティア)として活躍していただくための研修です。鴻巣市から委託を受けた社会福祉協議会が実施しています。市としては、これまで行ってきた「介護予防」や「認知症サポーター」など複数の事業を組み合わせ、バージョンアップさせたいという考えから生まれたものだそうです。このように幅広くメニューを用意しているのは県内では鴻巣市だけで、大変素晴らしいと思いました。

1日目と2日目は高齢者の生活全般の理解や支援するための傾聴や介護予防等の基礎編。3日目は訪問介護の方法など実務編を学習。16科目にわたっており、大変ボリュームがあります。

受講後の活動内容は、高齢者を対象とした“サロン”や“体操”などのボランティアや、生活の中での困りごと、例えば「ゴミ出しができない」「買い物に行けない」「洗濯物が干せない」などの生活支援のボランティアです。

1日目	基礎編①	傾聴など
2日目	基礎編②	介護予防など
3日目	実務編	訪問介護など

3 これからの活躍を期待しています

結びに、今回は、9人が受講されたとのこと。今後、福祉施設や地域活動の中で活躍していただける日が待ち遠しいです。次回は、私も参加したいと思います。

【問合せ先】 鴻巣市社会福祉協議会 地域福祉課 048-597-2100 鴻巣市健康福祉部 介護保険課高齢福祉担当 048-541-1321

アイスランドは、 “世界一、ジェンダー平等の国！！”

アイスランドという国を知っていますか？面積は、北海道と四国を併せた程度、人口は、39万3,160人という小国ですが、大統領も首相も女性です。首相は世界で最も若い37歳で、閣僚も11人中7人が女性です。

また、「女性の社会進出」と「ジェンダー平等」の推進を後押ししたのは、2つの制度です。



1つ目は、「皆保育」政策の導入です。これにより2歳以上の幼児が無条件で幼稚園での保育を受けられるようになり、夫婦で子育てと仕事を両立させることが可能になりました。

もう1つは、「共有育児休業制度」の拡充です。これにより、父親も育児休業を取ることができるようになりました。以上のようなことで、アイスランドは“世界で最もジェンダー平等が進んでいる国”と言われていいます。ジェンダーギャップ指数は世界で連続1位に輝いています。一方、日本は148か国中118位です。

令和7年度 鴻巣市人権・男女共同のつどい

令和8年1月18日(日) 14:00～

「自分らしく生きる」

ダウンタウンの浜田さんのものまねでおなじみのハリウリサさんの講演会とミニライブが催されました。

▶講演会では

講師：ハリウリサさん
(ものまね芸人)



「体は女の子、でも気持ちは男の子」

姉、兄という3人きょうだいで育ったハリウリサさん。お姉さんよりお兄さんのマネばかりする子どもでした。「髪の毛を短くしたい」「ランドセルは紺がいい」女の子なのに、と家族は戸惑ったことがあったそうです。

小学校入学後は、その行動や発言から「女の子らしくない」「おとこおんな」と言われ、からかわれるようになり、友達がいない辛い生活でした。

「本当の自分を隠して」

中学では友達と楽しく過ごしたいと考え、得意のものまねを披露したところ笑ってもらい、迎えてくれたことで、友達ができたそうです。

けれど、履きたくないスカートを履き、女の子らしいことをムリに演じていた生活でもあり、それは高校でも続きました。

「初めての仲間」

ものまね芸人を目指し入学した専門学校で、初めて「自分と同じ気持ちを持つ人たち」との出会いがありました。もう自分を隠さないで良いんだ。ありのままの自分でいられる場所をようやく見つけた喜びはとても大きかったそうです。ただ、まだトランスジェンダーであることを母には言えませんでした。

「母への歌」

お母さんはうすうす気付いていたようですが、そのことを話すことも本人から打ち明けられることもない状態が続きました。そして、時には言い争うことも。でも、そんなときでもお母さんは見守り続けてくれました。ハリウリサさんが出演している番組を2人で観ていたとき、お母さんが自分の本当の姿を知っていることが分かり、そこでようやく伝えることができたそうです。このお母さんとの経験を先輩芸人に話したところ、形に残したら良い、歌にしたら？とアドバイスをもらい、「ヴィルマ」(母の名前)という曲ができたそうです。講演の最後にこの歌を歌っていただきました。

これからもLGBTQの理解を広めるために活動していきたい、そして、皆さんに理解者になってほしいと伝えて終了しました。優しい笑顔が印象に残る講演会でした。

『小さな人形げき ふるら』を観に行きました

11月23日、閉校になった旧笠原小学校で『笠原のんびり市』が開催され、4年1組の教室で開かれた『小さな人形げき ふるら』を観に行きました。

赤ちゃんから小学生くらいの子もたちとご家族が会場の教室に集まってきました。

「ふるらーらーふるらーらりー♪」さーさんの歌声と一緒に『ふるら君』がフワフワと登場しました。



子どもから大人まで人気
『タンちゃんとななぼこ』

『タンちゃんとななぼこ』は、穴ぼこの中が見たくて見たくて何度も穴ぼこに落ちてしまうタンちゃんのお話。愛らしいタンちゃんの動きに、子どもたちは笑い声をあげて楽しんでいました。見事な龍がわらべ歌にのって美しく泳ぐ『でんでらりゅうば』、小唄風ダンボール紙人形劇『フー坊のおつかい』など、短い演目が続きます。お人形もお話もすべてさーさんの手作りで、会場は温かな雰囲気包まれていました。

さーさんに、お話を伺いました。

◆優しくて温かな人形劇でした。子どもたちもとても楽しそうでしたね。

はい、楽しんでもらえることが何よりうれしいです。私自身も楽しみながら演じています。

◆どんなことを大切に人形劇をされていますか。

「子どもも大人もみんなが豊かで幸せであってほしいし、それぞれの個性も違いも大事に尊重されてほしい」との願いを根底に、脚本や人形を制作するときもそれを意識しています。

◆どんなところで活動されていますか。

鴻巣市とその近隣を中心に、保育園、子育て支援センター、公民館などからご依頼をいただいています。また、ひなとま食堂さん（こども食堂）では、子ども向けワークショップのボランティアをしています。なるべく多くの方に観ていただきたいと思っていますので、気軽にお問い合わせくださったらうれしいです。



さーさん（林さとえさん）
イラスト：ご本人

お子さんの命を守り育むことって、とっても大変なこと…。子育て中の方、毎日毎日本当にお疲れさまです。がんばり過ぎていませんか？
どうかご自身をいたわり癒しの時間を持ってください。そしてどんどん誰かに頼ってください。私も人形劇を通して親御さんや子どもに関わる方のサポートをしていきたいと思っています。
また、どの年代の方にも安心して楽しめる身近な文化をお届けしたいと思っています。
どこかで皆さんにお会いできることをたのしみにしています。

○人形劇を鑑賞して○○○

人形劇に登場するおっちょこちょいな子、忘れん坊の子…どんな子も愛おしく、私たちの暮らす社会でも、こんな風に子どもも大人も、みんなが大事にされる世の中になるといいなと思いました。

SNS や映像の世界に触れる機会が多い今の時代だからこそ、手作りの温もりを感じられる文化を大切にしていきたいと思いました。

★ふるらの人形げきを観たい方はこちらから →



Instagram



LINE

パープルリボンキャンペーンを開催しました

令和8年1月18日（日）、鴻巣市人権・男女共同のつどいの開催に併せ、男女共同参画パネルの展示と共に、パープルリボンキャンペーンを開催しました。



○パープルリボンキャンペーンとは…

パープルリボン（紫色のリボン）はDV（ドメスティック・バイオレンス）をはじめとする女性に対する暴力をなくす運動のシンボルです。埼玉県男女共同参画推進センター（WithYouさいたま）では、女性に対する暴力をなくす運動として、タペストリーに県民の方々がパープルリボンを入れ、県内市町をリレー方式でつなぐイベントを毎年開催しています。鴻巣市でも、期間中タペストリーを展示し、多くの市民の方々にご参加いただきました。

悩みや困難の背景や理由はさまざまです。

ひとりで抱えていませんか？ まずは御相談ください。

相談内容	相談機関	電話番号	受付時間等
	DV相談ナビ 埼玉県男女共同参画推進センター「WithYouさいたま」	はれれば #8008 または 048-600-3700	月～水・金・土 9:30～20:30 日・祝・休日 9:30～17:00 (木曜日・年末年始を除く)
DV(ドメスティック・バイオレンス)に関する相談	鴻巣市やさしさ支援課	048-541-1321(代)	月～金 8:30～17:15 (祝・休日・年末年始を除く)
	内閣府DV相談+(プラス)	つなく はやく 0120-279-889	24時間365日受付
	埼玉県女性・DVチャット相談「たまチャ」		日・水・金 15:00～21:00 (年末年始を除く)
性暴力等犯罪被害専用相談電話	埼玉犯罪被害者援助センター ・埼玉県産婦人科医会 アイリスホットライン	やさしい 0120-31-8341	24時間365日受付
人間関係、家族、夫婦、生き方などの相談	埼玉県男女共同参画推進センター「WithYouさいたま」	048-600-3800	月～水・金・土 9:30～20:30 日・祝・休日 9:30～17:00 (木曜日・年末年始を除く)
男性のための電話相談	埼玉県男女共同参画推進センター「WithYouさいたま」	048-601-2175	毎月第1・第3日 11:00～15:00 (年末年始を除く)
女性相談	鴻巣市やさしさ支援課	048-541-1321(代) (予約優先)	毎月第1・第4木 11:00～14:00 (祝・休日・年末年始を除く)
性的マイノリティに関する悩み事相談	鴻巣市やさしさ支援課	048-541-1321(代) (予約優先)	毎月第1・第4木 14:00～15:00 (祝・休日・年末年始を除く)
性的指向や性自認に関する悩み	埼玉県「にじいろ県民相談」 (埼玉県性的マイノリティ県民相談)	0570-022-282 (ナビダイヤル)	毎週土 18:00～21:30 (年末年始を除く)



男女共同参画情報誌「ほほえみ」
第29号 2026年3月1日発行

発行 鴻巣市ほほえみ編集委員会
編集委員 小池真奈美、知野龍三、橋本円、佐藤一男、
森松寿夫、平賀恵子、清水由起子
表紙イラスト 林さとえ



ほほえみ編集委員募集中!

あなたも編集委員会に参加してみませんか。
ご意見・ご感想はやさしさ支援課までお寄せください。

鴻巣市やさしさ支援課

✉ yasasisa@city.kounosu.saitama.jp



KONOSU CITY
鴻巣市

〒365-8601 鴻巣市中央 1-1
☎ 048-541-1321
<https://www.city.kounosu.saitama.jp/>